株式会社 中藏

建設を通じて「ひと、まち、わざをつなぐ」

このコーナーでは、京都のまちづくりに取り組む企業・団体をご紹介します。今回は、平成29年（2017）より賛助団体として当財団にご協力いただき、「美しい町並みをいつまでも」を原点として掲げる中京区の工務店、明治43年（1910）創業の株式会社中藏です。同社は、P3でご紹介した、令和4年度京町家まちづくりファンド改修助成事業に選定された「白百合会の拠点」の改修工事を担当されています。同社代表取締役社長の古川亮太郎さんにお話を伺いました。

京都の町並みを残すために

株式会社中藏は、明治期に左官業として創業し、現在は大型施設から個人住宅の設計・施工まで幅広く対応しています。京都の美しい町並みを残すために、京町家のリノベーションも数多く手がけています。京町家を「保全する」だけでなく、安全・安心や快適性を確保することを大切にし、そのために新しい技術も取り入れています。京町家のリノベーションでは、外観を古い町並みになじむものにする、建物に無理をさせない、古い建具や素材を大切にする、などを心がけています。

新しい建物を建てる際にも、町並みになじませることは忘れず、建物自体が自然に寄り添うような京町家のパッシブデザインを取り入れています。深い軒や庭を配することなどは、自然エネルギーを活用すると同時に、情緒を取り入れることにつながると考えています。

株式会社中藏　代表取締役社長 古川亮太郎 氏
同社が運営する京町家一棟貸し宿「藏や南聖町」にて

「つなぐ」を担う存在に

木材や砂などの建築材料の確保や技術の継承は大きな課題であり、その状況は厳しくなっています。そんな中でも、伝統の技術を次の時代につなげていくことで、未来の世代で新たなものが生まれることもあると思っています。私たちは、建物をつくることを通じて、「触媒」のように間（あいだ）をつなげる存在でありたいと思っています。

株式会社　中藏
HP https://th-nakakura.co.jp/

表紙イラスト作者　アトリエ TAM **山口 珠瑛**（やまぐち たまえ）

絵本作家、イラストレーター。京都生まれ。京都育ち。
母の実家が仏光寺の近くの町家で、小さな頃よく町家で遊ぶ。
「町家えほん」「福ねこお豆のなるほど京暮らし」発売中。
ユーチューブで京の生活を発信中。
「ふくまめ京暮らし」で検索してくださいませ～

「葵祭」は賀茂大神を祀る「賀茂祭」が正式名称なんやて
5月1日の「上賀茂神社・競馬足汰式（くらべうまあしぞろえしき）」の「前儀」に始まって、
5月15日の「路頭の儀」が葵祭の巡行になるんやねぇ～

京都のひな祭りの和菓子「ひちぎり」は「引千切」と書きますぇ～
来客が多くて、お餅を丸めるひまがなくて、引きちぎったことが由来なんやて～
よもぎ餅のしっぽがかわいらしい形やなぁ～

スタッフのつぶやき

102号は葵祭や雛まつりをテーマに表紙画を描いていただきました。花かんざしや、雛飾りなど、華やかで心が躍りますね。この編集期間中は寒波で雪に包まれていますが、表紙画の柔らかく暖かい雰囲気で、春が待ち遠しくなりました。今年は、わいわいお花見のできる春になることを願っています。

ニュースレター
京まち工房 102
公益財団法人　京都市景観・まちづくりセンター

特集 P2-3
京町家まちづくりファンド見学会を開催しました

CONTENTS

P4 京都の新たな価値を創造する夜間景観
P5 トークセッション2023動画公開
P6 ボランティア意見交換会／文マネ講座、始まりました。
P7 ようこそ！まちセンへ／賛助会員募集／京町家まちづくりファンド御寄附のお願い
P8 企業・団体紹介／表紙イラスト作者紹介／スタッフのつぶやき

令和5年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体の皆様			
「京ぐらし」ネットワーク	アルパック 株式会社 地域計画建築研究所	JR this is japan. ISETAN	「価値ある相続」をコーディネート 一般社団法人 相続相談センター
フラットエージェンシー	平安建材株式会社	京都駅ビル	京町家居住支援者会議
京都市観光協会 KYOTO CITY	ART GALLERY & RENTAL SPACE be-kyoto	株式会社都ハウジング	大阪ガス
一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会	HACHISE 八清（はちせ） 町家・中古住宅	京都信用金庫	SAPPORO
中藏	京都中央信用金庫	住宅金融支援機構 Japan Housing Finance Agency	Sustainable Real Estate 持続不動産株式会社

ニュースレター京まち工房　第102号　2023年3月　　編集・発行：公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

公益財団法人
京都市景観・まちづくりセンター
〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る
梅湊町83番地の1（河原町五条下る東側）
ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL：075-354-8701　FAX：075-354-8704
E-mail：machi.info@hitomachi-kyoto.jp
HP：https://kyoto-machisen.jp
HP
Facebook
京都市景観・まちづくりセンター　検索

※センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用下さい。

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

京町家まちづくりファンド　－京町家に宿る「くらしの文化」を次の時代へ－

京町家まちづくりファンド見学会を開催しました

京町家まちづくりファンドは、京都のまちなみと京町家を愛する皆さんのご支援によって運営され、平成18年（2006）から令和4年（2022）までの16年間に96件の改修助成を行っています。

今回は、ご支援を頂いた皆様に改修助成の成果をご覧いただくため、見学会（京町家相談員スキルアップ研修を兼ねる）を開催しました。令和3年度に選定し改修が完了した「プレマルシェ京町家@京都三条」と、令和4年度（2022）に選定し改修予定の「白百合会の拠点」にて行われた見学会の様子をお知らせします。

商店街に残る京町家を再生「プレマルシェ京町家@京都三条」

地域の方々に親しまれている三条会商店街に位置する「プレマルシェ京町家@京都三条」。明治期に建てられた京町家ですが、改修前の姿は一見すると京町家とは気付かない、いわゆる「看板建築※」となっていました。伝統構法により建物を健全化し、伝統的な外観へ改修しました。

建物を入るとすぐに、京都では「オクドサン」と呼ばれる竈（かまど）が設置されています。このオクドサンは、当財団を通じて伏見区の京町家より譲り受け、移設されました。

奥に続く通路の上部には火袋が残されており、壁には今も黒い煤が付着している様子から、かつてはこの場所が薪の火で煮炊きをする「ハシリ」と呼ばれる炊事場であったことがわかります。

通路の奥は、再整備された庭になっており、新たに設置された水琴窟からは時折澄んだ音が響いています。さらに奥に進むと蔵があり、内部は多目的に使用できるように改修されています。

見学会では、古い京町家の雰囲気を活かしつつ、「子ども食堂」をはじめとした、新たな用途に使用できるよう丁寧に改修された建物の様子に、感心の声が上がっていました。

Before

外観（改修前）

After

外観（改修後）

移設されたオクドサン

見学会の様子

見学会の様子

見学会概要

[開催日時] 令和4年11月24日（木）　15時～18時

[会　　場] ①プレマルシェ京町家@京都三条【令和3年度選定／改修工事完了】
（所在地：中京区三条通堀川西入橋西町（三条会商店街内））
講師（解説・案内）：中川信男氏（建物所有者）、末川協氏（設計担当）、大下尚平氏（施工担当）

②白百合会の拠点【令和4年度選定／改修前】（所在地：中京区下八文字町）
講師（解説・案内）：楠りつこ氏（建物所有者）、株式会社中藏（設計・施工担当）

友禅染の歴史を感じる京町家「白百合会の拠点」

三条会商店街からほど近い場所に位置する「白百合会の拠点」。明治期に建てられ、昭和初期に友禅染の商品を展示し、接客する空間を備えた建物として改修されたと考えられる京町家です。

令和5年度に改修工事を予定し、改修後は現所有者が運営する社会福祉法人白百合会の拠点として、中学生向け学習支援活動や、地域の方々に向けたコミュニティカフェなどを実施する計画です。この京町家で生まれ育ち、建物をご家族から受け継いだ所有者が、子どもや中学生にも京町家の暮らしや生活文化を体験してほしいと願い、本計画が生まれました。

本建物の最大の特徴であるオモテノマは、上部がツシの空間まで貫く吹き抜けとなっており、かつては回廊の手摺に友禅の反物を掛け展示していたと伝わっています。敷地の奥には、貴船石の沓脱石や灯籠などが設えられた座敷庭と土蔵があり、明治期の京町家の風格を感じます。

見学会では、貴重な京町家に新たな息吹を吹き込み、次代を担う子供たちを支援する場として再生される計画に、大きな期待を寄せる声が聞こえました。

外観

見学会の様子
（上部が吹き抜けとなっているオモテノマ）

支援の輪が広がる京町家まちづくりファンド

京町家まちづくりファンドでは例年以上に、多くの法人、個人の皆さまからご支援をいただきました。ご支援賜り、厚く御礼申し上げます。皆さまのご寄附を励みとし、京町家を未来へつなぐため、当ファンド事業に一層取組んでまいります。

～寄附受納式～ 公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金よりご寄附

（公財）日新電機グループ社会貢献基金より、京都の文化財保護へのご協力として、当ファンドへ50万円、京都市へ250万円のご寄附をいただきました。日新電機グループ社会貢献基金の齋藤成雄理事長、門川大作京都市長等が列席された寄附受納式が執り行われ、今回で6回目となるご支援に、青山吉隆当財団理事長から感謝の意をお伝えしました。

写真：令和4年12月13日寄附受納式
（左から青山当財団理事長、門川京都市長、
齋藤日新電機グループ社会貢献基金理事長、
阪尻同事務局長）

企業による貢献

京町家の保全・継承への貢献は、京都の町並み景観の維持・継承に寄与することに加え、木材などの再生可能素材による環境保全の観点、社会的企業としてのイメージ形成、ESG評価の向上が期待できます。

株式会社井筒八ッ橋本舗をはじめ、当ファンドへの寄附付き商品を展開されている企業からも、長年に渡ってご支援をいただいています。

篤志家の皆様によるご支援、初となる遺贈も

かつて京町家にご縁があり、京町家の滅失に心を痛めた京都在住の方からのご寄附や、縁あって当財団の活動や行事に参加された方から遺贈を託していただきました。そして、平素より継続して、京町家相談員や講師など、ご協力くださっている皆さまからも、多額のご寄附を頂戴しています。令和4年度の寄附金は令和5年2月末時点で約1,809万円となりました。深く感謝申し上げます。

新たな価値の創造に向けて ～京都の夜間景観～

一日の半分は夜。人の営みが多様化した現代社会において、景観まちづくりは、夜のまちの雰囲気や趣を創出する「夜間景観」についても考えられるようになりました。

快適で安全なあかりとは何か、まちや都市の個性を表現する夜間景観とは何か、京都市は進化する景観政策の一環として、夜間の景観づくりの指針となる「京都のあかり」を令和4年3月にまとめました。

「夜間景観」という新しい取組に、まちセンも地域の方と一緒に勉強しながら、活動に参加しています。

(続)空と月の下に　先斗町の夜間景観

先斗町まちづくり協議会(以下、協議会)では、令和2年度から、鴨川や鴨川沿道などの公共空間の活用により、安心安全と、地域の魅力向上・にぎわいづくりを目的とした「鴨川ライトアッププロジェクト」の取組を始めています。

このプロジェクトの一つとして、先斗町通の中ほどに位置する先斗町公園の利活用を検討しています。令和4年には、11/4～11/13の間、先斗町公園に照明を設置し、夜間でも安心して憩えるための空間づくりと合わせ、災害発生時に公園を避難経路として活用するための実証実験などを行いました。

実証実験に対して寄せられたご意見では、

- 人の目が行き届くことで防犯に期待できる。ポイ捨てがなくなった。
- 散歩が楽しくなった。人が集まる憩いの場になる。

等を中心に、多くの意見が寄せられました。

実験終了後、協議会では、行政、専門家等と検証をおこない、

- ライトアップにより安全安心感が高まった。
- 先斗町通沿いの高木のライトアップは公園への誘導にもつながった。
- 公園奥の手すりの間接照明は川岸へ誘導するとともに安心感を高めた。
- 試行的に設置された丸太の椅子も、来園者が憩える空間の魅力を高めた。

の効果が期待できることが確認できました。

これからに向けて

鴨川は多様な生物の宝庫でもあり、夜間景観の創出では、自然や環境への配慮が不可欠です。生態系に悪影響を及ぼさないだけでなく、無駄にエネルギーを使わず、点検・交換などの将来のメンテナンスのしやすさ等も検討していく必要があります。

プロジェクトの実現に向けては、今回のような実証実験を重ねながら、地域、行政、専門家、支援機関等が一体となった事業体制の構築が不可欠であり、鴨川を管理する京都府にも参画を呼びかけ、実験の規模を更に拡大しながら、取組の必要性を提言していく予定です。

嵐山でも取組が始まりました！

景勝地として多くの人が訪れる嵐山。嵐山まちづくり協議会では、大堰川沿道の照明機器の交換や、長辻通の街灯の交換をきっかけとして、夜間景観への関心が高まっていました。

これまで、冬季の集客促進のため、12月に「嵐山花灯路(ライトアップイベント)」が行われていましたが、今回は、日常のあかりに注目した勉強会を、先斗町でも取組支援に関わっている夜間景観の専門家：長町志穂氏((株)LEM空間工房)を講師に開催しました。今後は、夜のまちあるきもおこない、嵐山らしい夜間景観について、引き続き検討していきます。

～新たなクリエイティブ拠点創出へ～「未来と町家をマッチする トークセッション2023」を動画公開

京町家等継承ネットでは、京町家等の活用者となる新たな担い手の発掘の促進、及び京町家等の保全・継承に係る先進事例を広く紹介することを目的として、ポータルサイト「MATCH YA(マッチヤ)」にて、「未来と町家をマッチする トークセッション2023 vol.1,2」の動画公開を開始しましたので、以下にご紹介します。なお、本トークセッションは、国土交通省の補助事業「令和４年度住宅市場を活用した空き家対策モデル事業」の一環として実施しており、トークセッションの他にも、京町家の活用イメージを伝えるケーススタディや活用事例紹介等の取組を行い、「MATCH YA」に掲載しています。

ポータルサイト「MATCH YA(マッチヤ)」にて公開しています。ぜひ、御覧ください。
URL　https://kyoto-machisen.jp/matchya/videos

01 トークセッション2023 vol.1

テーマ　**「エリアイノベーションへの挑戦」**
登壇者　Yamauchi No.10 Family Office、Business Incubation Office
岡田　光 氏(マネージングディレクター)
森元　貴之 氏
吉村　直途 氏
司　会　柳沢 究 氏(京都大学大学院工学研究科准教授)
収録場所　西橋詰町の長屋(会場協力 株式会社魚谷繁礼建築研究所)

西橋詰町の長屋　左:外観、右:内観

MATCH YAに西橋詰町の長屋を題材にモデル設計したケーススタディを掲載しています。

近年、任天堂の旧本社社屋をリノベーションしたホテル「丸福樓」の開業が注目を集めました。任天堂創業家により設立された一般社団法人Yamauchi No.10 Family Officeでは、創業の地である五条エリアを起点に事業を計画されています。Yamauchi No.10 Family OfficeのBusiness Incubation Teamから3名の講師を迎え、それぞれの参画理由や変貌しつつある五条エリアのポテンシャル、さらには地域貢献への展望をお話しいただきました。

02 トークセッション2023 vol.2

テーマ　**「イノベーションを京都から」**
登壇者　山内 英貴 氏
(一般社団法人京都ラボ代表者、株式会社GCIアセット・マネジメント代表取締役CEO)
井上　功 氏
(株式会社リクルートマネジメントソリューションズ マスター、「守破離」所有者)
司　会　柳沢 究 氏(京都大学大学院工学研究科准教授)
収録場所　京都ラボ(会場協力 一般社団法人京都ラボ)

京都ラボ　内観

守破離での井上氏

歴史的建造物や京町家をリノベーションして研究開発や人材育成の拠点とされている方々をお迎えし、なぜ京都を、なぜその拠点を選ばれたのかをお聞きし、イノベーションを創出する場とは何か？京都から発信することの強みや可能性について掘り下げていただきました。

セッションの終盤では、人数限定で参加された聴講者との熱心な質疑応答も交わされました。

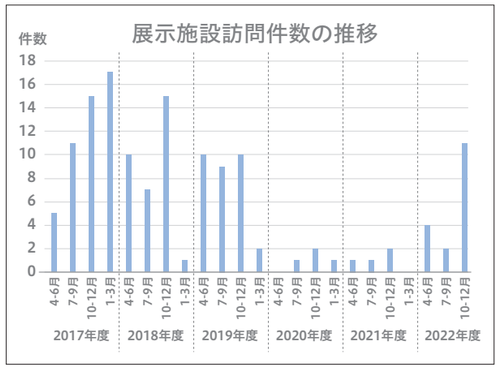
守破離　内観

京町家等継承ネットでは、京町家等の保全・継承に向けて、今後とも積極的に情報発信の取組を継続してまいります。

展示施設ボランティアの意見交換会

展示施設の解説ボランティアをお願いしている8名の方々に集まって頂き、今後のボランティアの在り方について意見交換会を行いました。その内容を紹介致します。意見交換会は2部構成で行われ、前半を「京町家の勉強会」、後半を「意見交換会」としました。前半の勉強会は、「京町家のリアルな空間に身を置いて、建築について学ぶ」という趣向で、実際の京町家（旧キンセ酒店、旧長谷川家住宅）の中で小出祐子氏(大阪芸術大学・准教授)の講義が行われました。講義中は興味津々の表情で各部屋を進んで行きました。そして最後の質問コーナーでは、時間を少しオーバーする程に皆さんから活発な質問が出されたことから、このようなやり方は新鮮で興味を持って参加して頂けたのではないかと思っています。

後半の意見交換会のテーマは、「今後のボランティア活動の取組について」ですが、まず当センターから最近の視察状況について説明がなされました。2020年と2021年は新型コロナウイルス感染症の影響で、訪問件数は激減していました。しかし、2022年の10月から12月の訪問件数はコロナ前に近い件数に戻っています。ようやく出口が見えてきたかもしれません。そして、コロナ前と同じ件数を受け入れられるような体制に戻す準備をする必要が出てきたと思われます。コロナ禍で視察が少なかったため、意見が出てくるのか心配でしたが、事務局が気づかない数多くの意見が出されました。その中で共通している思いとして、この施設を有効に活用し、京都の町が好きになってくれるファンを増やしたい。また、一方ではボランティアを通じて自分自身の成長に繋げたいということが伝わってきました。具体的に出された意見を少し紹介します。



「京都の歴史や文化的背景を理解し、共感し、京都を好きになってもらえるような説明をしたい」、「金沢はミニ京都といわれるが全く違う。金沢は武家、京都は民衆で、京都は他と違うユニークなまちづくりがなされている。」、「文化博物館のように、訪問者から聞きたいことを掘り起こす施設になっていない」、「他の団体や学校との連携も必要だと思う」。

今回は、この施設を応援してくださる人たちの存在を身近に感じ、自分たちはそれに応える責任があると再認識させられた意見交換会でした。参加した皆様、ありがとうございました。

開始前のオリエンテーション

勉強会

意見交換会

文マネ講座、始まりました。

第13期 京都市文化財マネージャー育成講座（略して、文マネ講座）が令和5年1月14日から始まりました。前回、第12期の文マネ講座は令和2年1月から開催されましたので実に3年振りの開催となります。令和4年11月1日から募集を開始しましたが11月21日には36名の定員に達しました。この様に、大変人気が高く歴史的建造物の調査や保存・活用に関わる方にとっては有意義な講座になっています。又、文マネ講座の修了者向けのアドバンス講座やスキルアップ講座の開催も現在、検討中です。

まちセンを見学に訪れた方をご紹介する「ようこそ！まちセンへ」。

今回は、ソウル市議会住宅空間委員会17名の議員の皆さんが訪問されました。

新型コロナウイルス感染症が発生し、世界的に流行後、国内外からの当センターへの視察数は激減していましたが、昨年秋頃より戻りつつあります。2022年10月から2か月間に、10団体175名を受け入れました。

12月26日は、ソウル市議会住宅空間委員会の皆さんをお迎えし、京都の都市の変遷や当センターの活動内容について説明しました。

韓国にも伝統的建物として韓屋（かんおく）があり、近年新たに保全・活用される動きがあるそうです。そのため、京町家の改修に対する京都市の補助に関する質問、伝統的な建物の保全に対する京都市民の意識に関する質問などが寄せられました。

視察されたみなさん

お土産：
螺鈿細工の置時計
をいただきました。

令和５年度賛助会員募集中！

当財団は、住民・企業・行政が力を合わせて、美しい京都のまちを守り育てていく、パートナーシップのまちづくりを推進しています。
活動趣旨に賛同していただける方を賛助会員として募集しています。

年会費　個人１口　**5,000**円　団体１口　**50,000**円

入会をご希望の方は、当財団にお問合せいただくか、ホームページをご覧ください。

賛助会員お申込みのご案内ページはこちら
https://kyoto-machisen.jp/partner/

※当財団の賛助会員は、公益財団法人に対する寄附として、税の減免措置を受けることができます。

特典1　ニュースレター **京まち工房」の送付**
特典2　**各種セミナー・イベント**のご案内（随時）
特典3　当財団ホームページへの **バナー掲載**（団体会員のみ）

令和４年度は下記の皆さまにご入会いただきました。ご支援ありがとうございました。

【個人会員】（五十音順、敬称略）
赤星周平、浅田毅、足立和康、網野正観、荒川朋彦、伊藤正人、伊藤真嗣、稲木藍、井上信行、井上久明、岩﨑清、岩﨑亘男、上嶋晃弘、上原智子、畝博之、江田頼宣、大岸將志、大路健志、太田昌志、大西美和子、大西一範、岡崎篤行、岡田圭司、岡本正二、奥美里、小田厚子、梶山真樹、加藤貴之、門川信一郎、金本鉄守、川口浩、河﨑尚志、川本淳一、北川洋一、木股博一、来海賢一、木村忠紀、木村泰之、桑原尚史、小泉哲、小嶋新一、小谷啓太、小西吉治、坂本正壽、坂本朝子、阪本健、佐藤友一、佐藤友彦、真田松寿、鮫島恵子、柴崎孝之、島田和明、島村泰彰、清水博之、杉崎和久、鈴木知史、炭崎勉、関岡孝繕、関山達郎、高井均、高川祐子、髙木伸人、髙木勝英、髙木貴子、髙橋ありす、髙谷和代、竹内重貴、武村純一、田中照人、谷口一朗、谷村寧昭、玉山千映子、玉山秀文、田村郁夫、辻勇治、恒成恒、寺島彰、寺田敏紀、寺田史子、寺田泰三、寺谷淳、寺本健三、内藤郁子、中井健一、仲北好宏、中島吾郎、中島弘益、中司小百合、中村有希、中山雅永、西尾由輔、西川武士、西澤亨、西村健、野原将嗣、野間久世、歯黒健夫、橋本操、旗哲也、畑正一郎、八田宗子、馬場保行、早﨑真魚、林建志、林道弘、速水孝治、樋口博紀、菱崎裕之、平井義也、平井忠之、吹上裕久、福本元気、福本紗和、藤村知則、冨名腰隆、舩橋律夫、文山達昭、平家直美、前岡照紀、前田史浩、牧野忠廣、牧村雅史、松村亙、松本純二、ミーガン・フレーザー、水口義晴、三原一男、宮川明子、宮川邦博、宮本日佐美、宮脇和生、森知史、安井玲子、矢田部衛、柳原博實、矢野裕史、山内典子、山口ひかり、山田宏隆、山野暢子、山本耕治、山本一博、山本崇、吉田光一、吉田健、吉永順子、その他非公開15名

【団体会員】（五十音順、敬称略）
大阪ガス株式会社、京ぐらしネットワーク、京都駅ビル開発株式会社、公益社団法人京都市観光協会、京都信用金庫、京都中央信用金庫、一般社団法人京都府不動産コンサルティング協会、京町家居住支援者会議、健康不動産株式会社、サッポロビール株式会社、株式会社ジェイアール西日本伊勢丹、住宅金融支援機構、株式会社ステーション、一般社団法人相続相談センター、株式会社地域計画建築研究所、株式会社中藏、株式会社八清、株式会社フラットエージェンシー、平安建材株式会社、株式会社都ハウジング、その他社名非公開１社

京町家まちづくりファンド －京町家に宿る「くらしの文化」を次の時代へ－

京町家まちづくりファンドでは、京都固有のくらし・空間・まちづくりの文化の継承と発展を目的に、平成18年度からこれまでに96件の京町家の保全・再生・活用を支援してきました。継続的な事業実施のため、皆さまのご支援をお願いします。ご寄附は、①金融機関へのお振込、②クレジットカード決済、③携帯電話料金とまとめてのお支払い、④当財団窓口での現金受付のいずれかの方法により、一口1,000円から※受付しております。
※「つながる募金」を経由した場合のみ、一口100円からご寄附いただけます。

ご寄附いただいた皆さまには
- 京町家まちづくりファンドによって改修された京町家の見学会や報告会等のご案内を差し上げます。
- お名前を京町家まちづくりファンド専用ホームページ等に掲載いたします。
- 税制上の優遇措置
（2,000円を超える額の寄附をした個人の方は、確定申告により所得税の控除が受けられます。）

詳しくは京町家まちづくりファンドWEB「ご寄附のお願い」をご覧ください。　URL ▸ **https://kyoto-machisen.jp/fund/donation/**

2022年～2023年2月　京町家まちづくりファンドに御寄附いただいた皆様

皆さまの御支援に深く感謝申し上げます

【個人】2022年　23名(非公開希望3名)（五十音順 敬称略）
荒井孝、魚谷繁礼、角川裕次、河﨑尚志、木﨑勝夫、木股博一、白子なつ子、砂本文彦、髙木貴子、ダニエル・アルパルト、寺田敏紀、ナポリターノ・キアラリタ、生川慶一郎、西嶋淳、西村孝平、野々村好三、牧野忠廣、正木朋康、松井大輔、望月幸夫

【個人】2023年2月末時点　10名(非公開希望3名)（五十音順 敬称略）
岡田パトリック光、髙田光雄、寺田敏紀、西村孝平、望月幸夫、森元貴之、吉村直途

【法人・団体】14団体（五十音順 敬称略）
有限会社アーキテクトタイタン、株式会社井筒八ッ橋本舗、FVジャパン株式会社、株式会社大下工務店、京果 京都青果合同株式会社、京都クレジットサービス株式会社、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社、株式会社さんけい、有限会社鈴木モータース、株式会社辻工務店、都市居住推進研究会、公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、一般財団法人長谷川・歴史・文化交流の家、株式会社都ハウジング